

基礎から学ぶ**仙台防災枠組**

～仙台防災枠組ってなに？～

開催概要と参加者アンケート

日時

2019年9月27日(金) 14:00～16:00

9月28日(土) 14:00～16:00

会場

スタンダード会議室 仙台一番町ホール店 6階C会議室

主催

東北大学災害科学国際研究所、仙台市

参加人数

87名(2日間合計)

次第

1. 開講
2. 講義 27日：泉貴子准教授
28日：今村文彦教授、泉貴子准教授
3. 仙台防災枠組講座シリーズ受講生による事例発表
27日：将監西町内会SBL 関内昭一氏
28日：せんだい女性防災リーダー 大内幸子氏
4. 主催者からのお知らせ
5. 閉講

今村文彦教授 講義

仙台防災枠組が採択された背景として、国連防災世界会議を始めとする国際会議とその成果文書について説明。仙台防災枠組に謳われている目標、期待される成果、優先行動についてひとつひとつ丁寧に解説した。復旧と復興の違いにも触れ、「ビルド・バック・ベター」の考え方を伝えた。

また、世界防災フォーラムでの仙台防災枠組に関するセッションの様子や、これまでの仙台防災枠組講座の実績を紹介。加えて、国内外の『知識が命を救った』事例を交え、災害リスクを知ることの重要性を強調した。

さらに、『防災はそれぞれが協力しなければ成り立たない』として『役割』をキーワードに挙げ、防災分野での人材育成が課題となっている現状を説明した上で『学んだり、考えたり、気付いたりする場が必要』として世界防災フォーラムを紹介した。



泉准教授 講義

仙台防災枠組は世界の国々が成すべきことが書かれた文書であり、仙台のための文書ではないことを始めに強調。2004年のスマトラ沖地震を契機に防災の議論が活発化したこと、日本のように防災対策が進んでいる国は決して多くないこと、地震や津波の早期警報が整っている国はとても少ないことなどを説明した。その上で、災害そのものだけでなく、その被害を拡大する貧困や気候変動などの背景にも着目する必要があることを解説した。また、仙台防災枠組の採択により各国で政策が見直され、防災への意識が高まったが、今後はさらに様々な人が防災に参加できる環境を整えることが必要であると訴えた。

参加者へは、日頃の防災活動が優先行動にどう関係しているかを考え、地域のまち歩きなどを通して災害リスクを知り対策を検討する、などの取組みを紹介した。

受講生による事例発表【9月27日】

「地域内の災害リスク 仙台防災枠組から学ぶ地域の防災・減災」

将監西町内会SBL・関内昭一氏より、地域の防災意識を高める必要性や実際に行っている対策を説明。

津波被害の可能性がほとんどない地域であっても、住宅内や道路に様々な災害リスクが潜んでいることや、地域の今昔図・ハザードマップの見方について実例を交えて解説した。また、地域で行うべきこととして、学校への協力要請や地域住民への情報共有を挙げ、『災害リスクの管理』の重要性を訴えた。

防災意識の向上はあらゆる地域の共通課題となっているため、参加者の中には「自身の地域の取組みの参考としたい」との声もあった。

受講生による事例発表【9月28日】

「地域の防災に活かそう「仙台防災枠組」2015～2030」

せんだい女性防災リーダー・大内幸子氏からは、冒頭に、自らが事例発表を行うに至った経緯と、仙台防災枠組を多くの人に知ってほしい旨の説明があった。

東日本大震災以前から水災が続く地域であることを踏まえ、若い世代の命を守りたいという思いから、震災を知らない子どもたちと役割を分担し、全員参加型の避難訓練を行ってきた。教職員とも連携し、災害が発生した際の行動を子どもたち自身に考えさせる取り組みを通して、経験と教訓の伝承の必要性を訴えた。

災害時に多様な人々への配慮を行うために女性のリーダーも必要、としたうえで、より多くの人に仙台防災枠組を学んでほしいと結論付けた。



質疑応答1【9月27日】

Q1. 千葉県で発生した停電被害について、発生前後にどのような対策が有効だったと思われるか。

A1. 千葉県、県下の各市町村がどのような体制で災害対応を行っていたかを検証する必要がある。今回の経験を踏まえ、電力会社との連携が事前に協議されていたのか、など不足している部分を補う対策を考えることが重要。

Q2. ハザードマップによると、指定避難所への経路に危険箇所がある。ルートが二つあるが、どちらも道が崩れる危険があるようだ。どうすればよいか。

A2. まず、災害リスクを理解したことが素晴らしいこと。例えば、避難所へ向かう時間を早めればよいのか、経路を見直せばよいのかなど案は色々あると思われる。そのことについて地域で考える機会を設けてはどうか。実際に住む人でなければわからないこともあるため、ぜひ協議と訓練を継続していただきたい。

Q3. 植樹された樹木が大木となり、倒木の危険性がある。自分たちで伐採することはできない。地域住民はあまり危機意識がないようだが、どうすればよいか。

A3. 町内会で意見をまとめ、区役所に相談するとよい。ただし、私有地内の樹木の処理は行政では行えないので、公共用地に限る。



Q1. (今村教授から大内氏へ) 防災活動のきっかけはどのようなものか。

A1. 以前は水災に遭っても思い出すことが辛く、人に話さなかったが、東日本大震災に遭い、経験を伝える必要性に気づいて活動を始めた。

Q2. せんだい女性防災リーダーとはどのようなものか。

A2. イコールネットせんだいが主体となり、東日本大震災以降、防災分野における女性のリーダーを育成している。現在約100名が資格を持っており、区ごとに定例会を開催して広報活動やイベントなどにも協力。SBLと兼任している人も多く、地域の防災活動に女性の視点を生かすことができるようになった。

Q3. 女性リーダーとして活動するにあたり、学ばないといけないことがあった、とは具体的にどのようなことか。

A3. 東日本大震災当時、避難所運営の主体は男性であり、乳幼児や障害者などの細かいニーズになかなか気づいてもらえず、避難者側も言い出せなかった。要支援者への対応も福祉避難所の活用方法もわからなかった。そういったことを、学ぶべきだと感じた。

→ (質問者より) 震災当時は役員をしており、避難所運営にも関わった。気を配っていたつもりで、うまく運営できたと感じていたが、避難者から声が上がり気配がつかないこともあった。そもそも避難所に来ることができない人もいた。

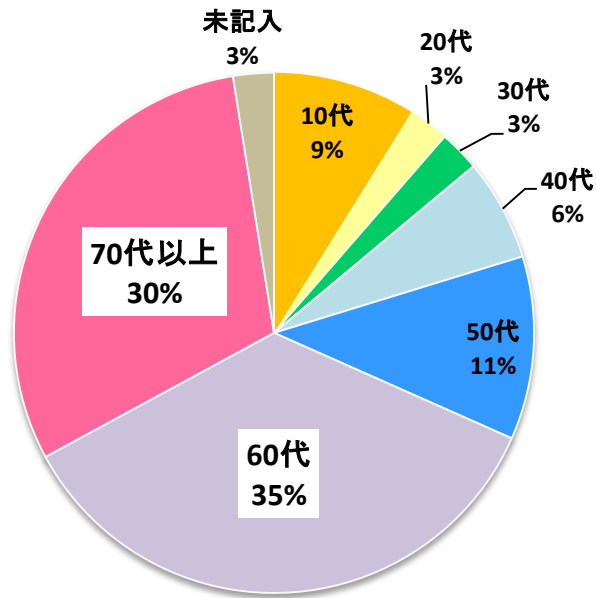
Q4. 蒲生公園住宅に近接する津波避難タワーは、階段を上る際に一度低いところの下がらなければならない。車いすの方や高齢者が利用するためのスロープも遠回りになっている。市に問い合わせたところ、既に完成したものなので仕方がないとの回答であった。このことについて、客観的にどう思われるか。

A4. まず、災害リスクをきちんと把握されていることは素晴らしい。そのうえで、例えば早めの避難をする、避難ルートを検討するなどの選択肢がある。防災対策にも事前の準備も完全というものはなく、リスクを理解したうえでそれをカバーするための訓練を意識的・継続的に行うことが重要。

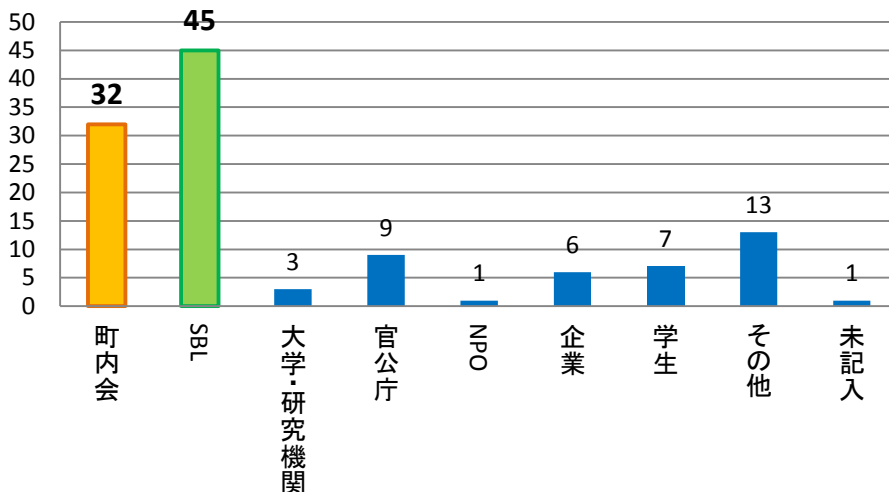
受講者アンケート結果1

講座の参加者へアンケートを行い、87名の参加者から79名分の有効回答を得た。選択式・記述式合わせて全8問の結果を以下にまとめた。

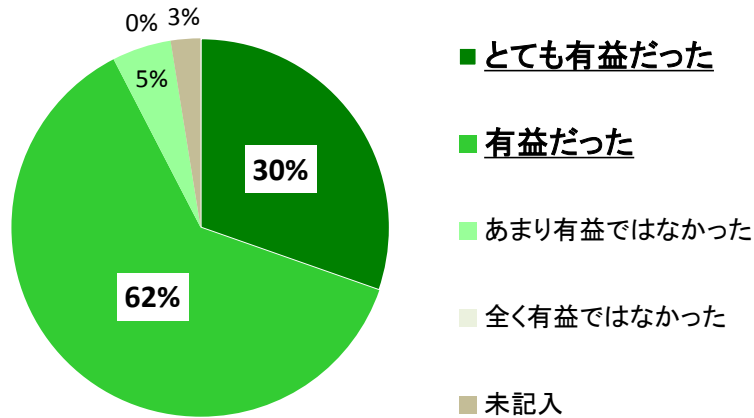
Q1-1 受講者の年齢



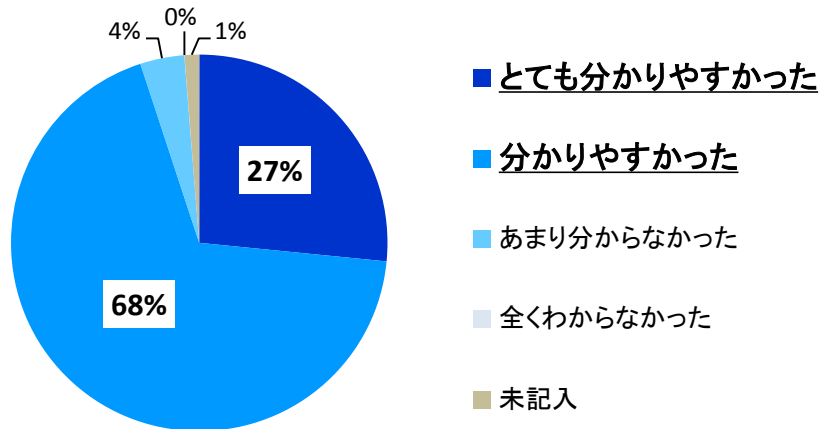
Q1-2 受講者の所属(複数回答可)



Q2 講座の内容は有益だったか



Q3 講座の内容はわかりやすかったか



「講座の内容は有益だったか」「講座の内容はわかりやすかったか」という設問に対しては、いずれも回答者のうち90%以上から肯定的な回答を得られた。

講師の先生方からの講義のほか、地域に根差した活動を行う市民からの事例発表を行うことで、より仙台防災枠組を身近に感じることができたのではないかと考える。

Q4 「仙台防災枠組」について知っていたか

内容を知っていた	名前は聞いたことがあったが内容は知らない	今回初めて知った	未記入
14	36	27	2

Q5 講座の感想や、特に印象に残った点があればご記入ください

【自由回答 ※回答内容は要約】

- ・仙台防災枠組について理解できた 13件
- ・事例発表者の発表が分かりやすかった 13件
- ・災害リスクの共有と管理の大切さが分かった 9件
- ・もっと仙台防災枠組を広める取り組みが必要だと思った 9件
- ・今後の活動の参考になった 5件
- ・もっと色々な事例を聞きたかった 4件

Q6 日頃、防災・減災のためにどんな取り組みを行っていますか

【自由回答 ※回答内容は要約】

- ・防災訓練、防災講座などの開催 37件
- ・水、食料などの備蓄 14件
- ・避難所、危険個所、家族や職場との連絡方法の確認 12件
- ・防災グッズや消耗品などの備蓄（食料品以外） 11件
- ・家具の固定、転倒防止対策 8件
- ・コミュニティ作り、見守り活動 4件
- ・SBLとしての活動 4件
- ・防災関連情報の周知、共有 3件
- ・その他 4件

Q7 自身の活動について発表してみたいか

発表したい	発表したくない	現時点ではわからない	未記入
1	12	50	16

Q8-1 今後どのような形式の講座に参加したいか

講義を聴講する講座	ディスカッション・グループワークを行う講座	その他	未記入
56	31	6	10

Q8-2 その他・コメント

【自由回答】

- ・継続した内容、取り組みをお願いします。
- ・現地での取り組みも見たいです。
- ・対面や少人数で災害リスクを話し合うと率直な情報や真実がわかると思います。
- ・具体的に学べるものや、好事例の共有をお願いしたいです。
- ・復興支援や復興への取り組みなどの事例報告も聞きたいです。
- ・仙台市の防災についての話をお願いします。
- ・今日のようなお話をYouTubeなどで見られるといいと思います。

